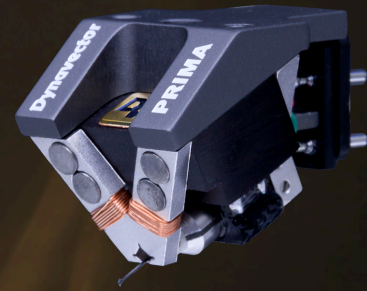


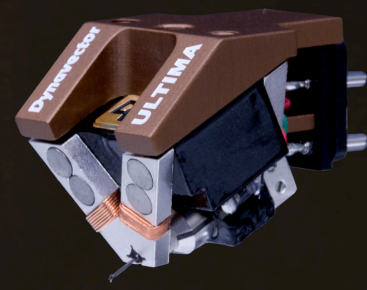
XV Prima



XV Primaは、XVシリーズが長年にわたり培ってきた設計思想のそのすべてを結実させたMCカートリッジです。開放型ボディ、8個のアルニコ磁石、4分割イコライザー、安定性に優れたアフリカ黒檀ボディ、そして新たに採用された特殊焼鈍技術による磁気回路。それぞれの技術が高次元で融合し、卓越した安定性と音楽性を実現しています。音場は広大でありながら自然。音色は誇張なく忠実で、周波数バランスの存在を意識させないほど滑らかに音楽が広がります。XV Primaはフラッグシップモデルへの通過点ではありません。音楽を深く味わうために辿り着いた、一つの完成形です。

型式	低出力 MC Cartridge, アルニコ磁石 & フラックスダンパー	針圧	1.8 - 2.2 g
出力電圧	0.28 mV (at 1kHz, 5cm/sec.)	インピーダンス	6 Ω
チャンネルセパレーション	30 dB以上 (at 1kHz)	推奨負荷抵抗	30 Ω 以上
チャンネルバランス	1.0 dB以下 (at 1kHz)	カンチレバー	6mm 長 ソリッドボロン
周波数特性	20 - 20,000 Hz (±1 dB)	スタイラス	PF ラインコンタクト 7 x 30 μ
コンプライアンス	10 mm/N	自重	12.6 g

XV Ultima



ダイナベクター独自の特殊焼鈍技術をさらに推し進め、MCカートリッジの限界へ挑んだフラッグシップモデル、それがXV Ultimaです。コイルボビンには一般的な磁性材を大きく超える純度を持つ研究用超高純度鉄を採用。磁束の微細な変化にも極めて低歪みで応答します。さらに、十字形状に精密加工されたコイルボビンと人の髪よりも細い超極細コイル線により、可動質量を極限まで低減しました。音と音の間には、より深い静寂を。音そのものには、より鮮明な実在感を。素材にもコストにも一切の妥協なく仕上げられたXV Ultimaは、理想の音を追い求めるリスナーのためのMCカートリッジです。

型式	低出力 MC Cartridge, アルニコ磁石 & フラックスダンパー	針圧	1.8 - 2.2 g
出力電圧	0.32 mV (at 1kHz, 5cm/sec.)	インピーダンス	24 Ω *
チャンネルセパレーション	30 dB (at 1kHz)	推奨負荷抵抗	75 Ω 以上
チャンネルバランス	1.0 dB (at 1kHz)	カンチレバー	6 mm 長 ソリッドボロン
周波数特性	20 - 20,000 Hz (±1 dB)	スタイラス	PF Line Contact / radius 7 x 30 micron
コンプライアンス	10 mm/N	自重	12.0 g

* XV Ultimaのインピーダンスは一般的なカートリッジよりも高い点にご注意ください。最適な音質を得るためには、フォノイコライザーの設定を適切に行う事が重要です。

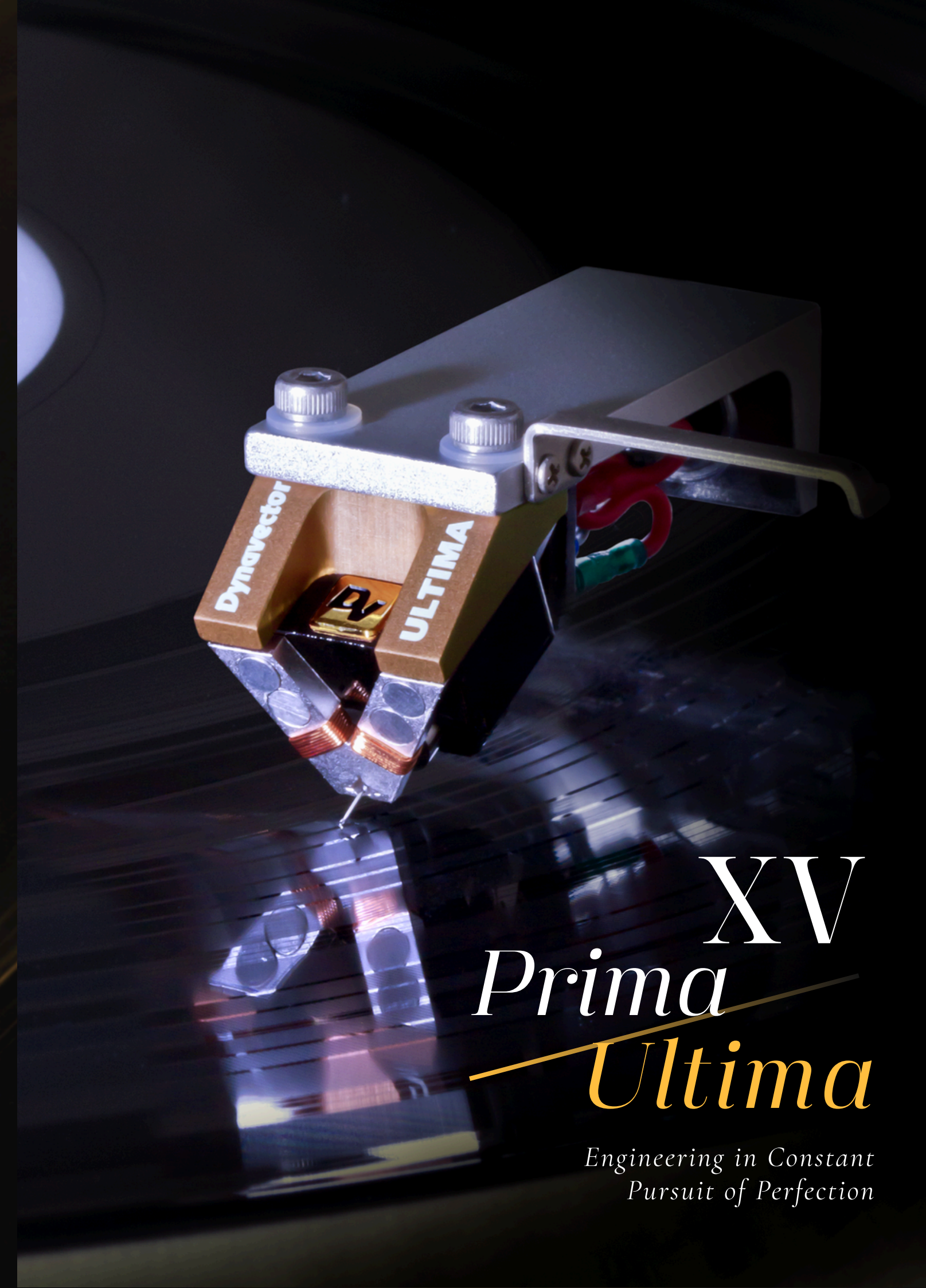
Dynavector

〒101-0031 東京都千代田区東神田3丁目2番7号
TEL: 03-3861-4341 FAX: 03-3862-1650

dyna_info@dynavector.co.jp www.dynavector.co.jp

Dynavector

dynavector_official



XV Prima Ultima

Engineering in Constant
Pursuit of Perfection

Founded by
Dr. Noboru Tominari

The XV Evolution

The academic mastery
of a lifelong devotion
to the magnetic circuit

フラックスダンパー

Precision from before the signal

MCカートリッジの開発初期段階において、ダイナベクターの技術者は磁気回路内に生じる微細な磁束変動の存在に着目しました。そのわずかな揺らぎはエアギャップ内の磁場に影響を与え、最終的には出力信号の歪みとして現れます。フラックスダンパーは、この問題に対してダイナベクターが到達した独自の技術です。フロントヨークに巻線を施すことで、磁束変動に応じた逆向きの磁束を生成し、磁場そのものの安定化を図ります。XV Ultimaでは、8個のアルニコ磁石によって構成される2系統の磁気回路それぞれに対応するため、フロントヨークの左右に2つのフラックスダンパーを配置しています。これによりエアギャップ内の磁束はより安定した状態で音楽信号を再生できるようになります。結果として得られるのは、わずかなざらつきすら排した静寂と、明瞭に広がる自然な空間表現です。

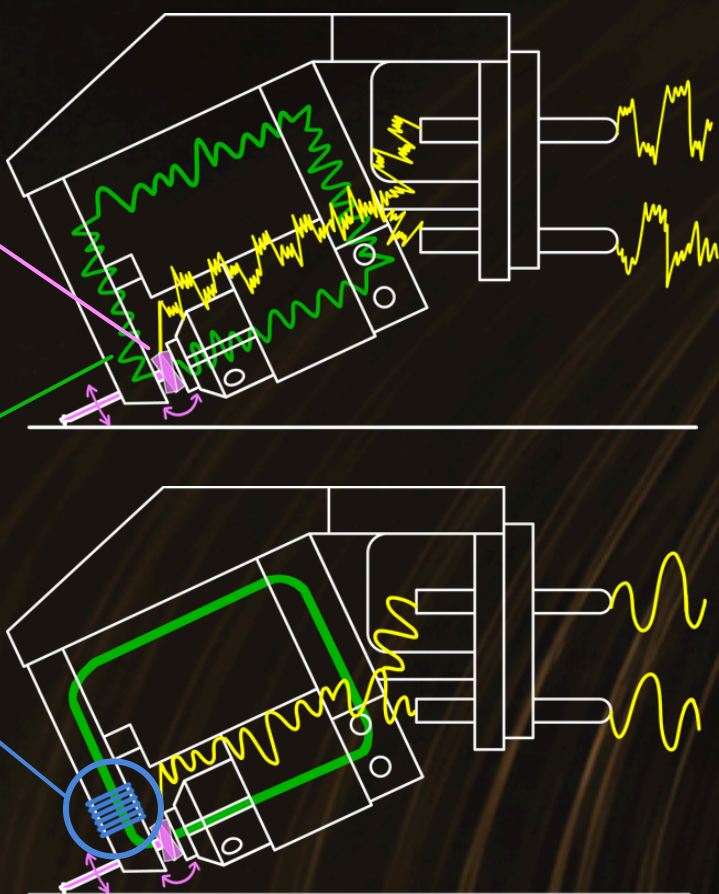
フラックスダンパーの動作原理 (イメージ)

■ 磁気回路の磁束 ■ 出力信号
■ 音溝のトレースによる振動

コイルボビンで出力信号が発生した時、発電コイルを流れる電流によって別の磁束が発生します。これにより、エアギャップ内の磁束密度が変動します。

磁束の変動は磁気回路内の磁場分布を変化させ、出力信号に歪みを生じさせます。

フラックスダンパーはこの変動を抑制する磁束を生成し、磁場を安定させます。これにより、歪みの少ないクリーンな出力信号が得られます。

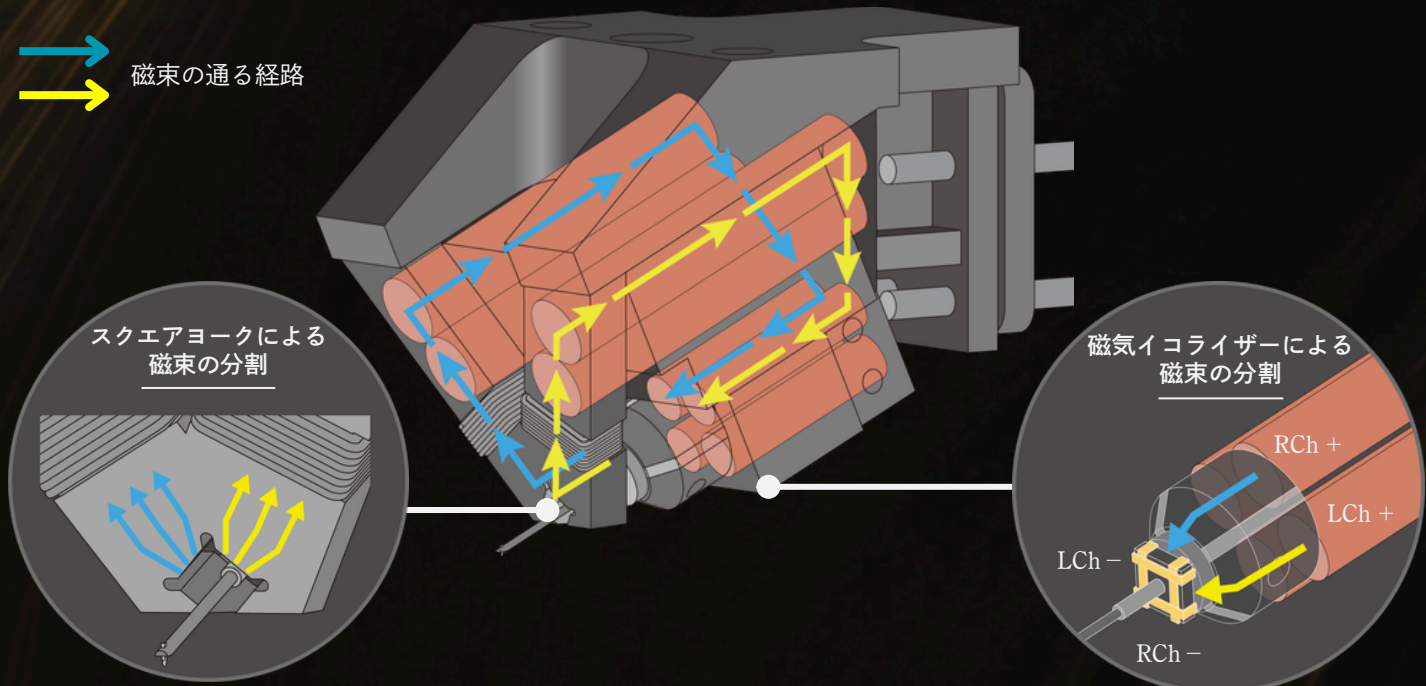


マグネット 8 個採用 V 型構造

shorter Magnetic Path. Better Sound

カートリッジ設計において、磁気回路の開放と扱いやすさの両立は常に課題でした。XV Ultimaは独自のV型構造によってこの問題を解決しています。V字型ボディは磁気回路と配線を大きく開放し、不要なエネルギーの滞留や共振を抑制します。一方で安定したグリップ感も確保し、開放型構造でありながら高い扱いやすさを実現しました。この思想は磁気回路設計にも貫かれています。MCカートリッジでは、磁束はヨークを経由してコイルへ到達しますが、その経路が長いほど損失や歪みが発生します。XV Ultimaではこの磁束経路を極限まで短縮しました。その中核となるのが8個のアルニコ磁石です。4個の円柱形磁石がV字型フロントヨークを介してメイン磁気回路を形成し、残る4個はコイルボビンの直近に配置され、それぞれのコイルへ最短経路で磁束を供給します。アルニコ磁石は滑らかで直線性に優れた磁場特性を持ち、希土類磁石とは異なる自然な音色と音楽的な一体感を実現します。

1999年と2000年に開発された XV の磁気回路 (イメージ)



スクエアヨーク 磁気イコライザー

Isolated flux. Real Channel Separation

従来の磁気回路では各コイルの磁束経路が干渉し合っていました。XV Ultimaではこの問題を解決するため、磁気回路の細部に至るまで再設計を行っています。フロントヨークにはコイルボビン形状に合わせたスクエア形状を採用し、角部のスリット構造により各コイルへの磁束経路を分離しています。さらにイコライザー部も4分割構造とし、それぞれのコイルに独立した磁気経路を形成しました。これにより磁気的な相互干渉を大幅に抑制し、より明確な空間表現、低歪み、そして従来構造では到達できなかった高い解像度を実現しています。

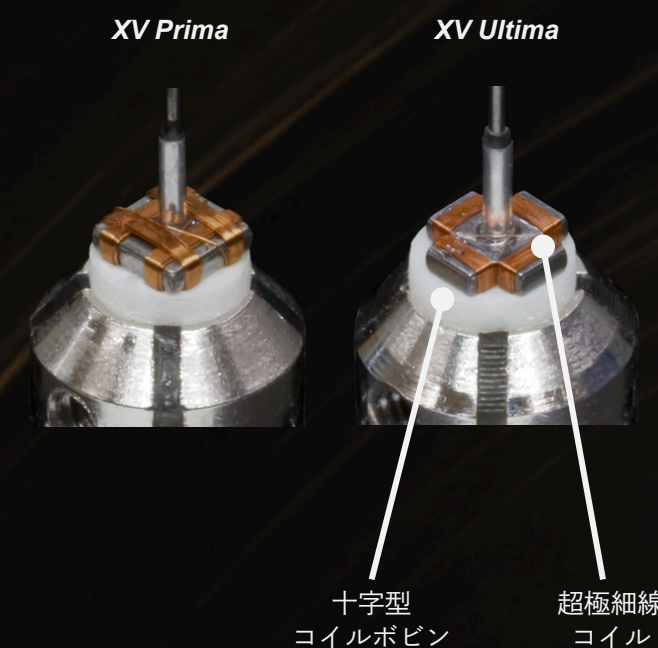
十字型コイルボビン 超極細線コイル

Lighter mass. Truer sound.

真のサウンド再生を追求する中で、XV Ultimaは振動系の設計を見直しました。スタイラスから信号へ至るまでのあらゆる質量は、加速・減速・制動を繰り返す負荷となり、特に人間の耳が敏感な帯域において音の表現へ大きな影響を与えます。また、素材の選択も音質を左右する重要な要素です。コイルボビンには、従来の磁性材料を大きく超える純度を持つ研究用超高純度鉄を採用。微細な磁束変化にも優れた直線性で応答し、信号の歪みを最小限に抑えます。さらにボビンは、必要な剛性を維持しながら不要な質量を徹底的に削減するため、十字型形状へ精密加工されています。巻線には人の髪よりも細い超極細純銅線を採用し、振動系の可動質量を極限まで低減しました。可動質量が小さいほど、スタイラスは音溝の微細な動きへより正確に追従します。その結果、極めて高い微小信号の再現性、音と音の間に広がる深い静寂、そして繊細さと実在感を兼ね備えたサウンドステージが実現されます。

※ XV Ultima のみに採用

コイルボビンの比較



特殊焼鈍技術

Restoring what machining takes away

20X2Aで初めて実用化されたダイナベクター独自の特殊焼鈍技術は、ついにXVシリーズへと到達しました。この技術は、先進磁性材料の専門家との共同研究によって開発されたものです。金属は製造や加工の過程で結晶構造が原子レベルで歪み、透磁率が低下します。一般的に実施されるアニール処理では、それを十分に回復する事ができません。ダイナベクターでは、素材ごとに温度・雰囲気・処理時間・加熱速度・冷却速度を緻密に最適化。日本刀鍛錬の伝統にも通じる繊細な熱処理技術を、音質追求のために応用しています。XV Ultimaではこの技術をさらに発展させ、磁気ヨークやコライザーに加え、8個すべてのアルニコ磁石にも特殊焼鈍処理を施しました。アルニコ磁石への適用は、ダイナベクター史上初となります。その結果、純鉄とアルニコ磁石は本来の磁気特性を最大限まで引き出され、比類のない解像度、滑らかな広帯域表現、そして広大な音場を実現しています。

特殊焼鈍技術 (イメージ)

